

II. 事業の概要

1. 学園の事業報告

〔1〕情報公開について

私立学校法により閲覧に供することが義務づけられた書類（財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監事の監査報告書）は事務局に供え置き、在学生及びその他の利害関係者から請求があった場合には、これを閲覧に供する態勢を整えている。

私立学校法の一部改正に基づく財務情報等の公開については、大学のホームページに掲載。また、大学後援会の協力を頂き、後援会が毎年発行している会報誌「リバティネット」に本学園の平成 29 年度事業報告書及び決算報告書（抜粋）を掲載した。

〔2〕監査について

学園の教育機能の向上と財政の基盤確立等に寄与するため、監査の実施を円滑かつ効率的に推進することを目的に、「監事監査規程」「内部監査規程」を制定し、監査を実施した。

〔3〕平成 30 年度学園の実施状況等について

実施した事業内容は、次の通りである。

（1）施設の老朽化に伴う建物、建物附属設備等の改修・整備

- ①大学 高圧ケーブル入替工事
- ②大学 3 号館教室（3202）の椅子・机撤去
- ③大学 5 号館 2 階男子トイレ改修工事
- ④高校 屋外受電機器設備入替整備工事
- ⑤高校 体育館電源改修工事
- ⑥高校 第 2 寮改修工事

（2）大学教育用機器備品等の整備

- ①落雷対策に伴うサージプロテクション増設
- ②学生証発行システム更新
- ③内部・外部 DNS サーバ再構築
- ④WEB サーバ再構築
- ⑤無線 LAN ネットワークの学生会館へ増設
- ⑥免許更新講習システムサーバ入替

（3）高校大学教育用機器備品等の整備

- ①5 号館 2 階エアコン入替
- ②教務システム機器入替
- ③家庭科調理実習室改修工事
- ④体育館椅子運搬車改修工事
- ⑤スクールバスの購入

（4）台風災害に伴う改修工事

- ①大学 図書館外壁・フェンス工事
- ②大学 5 号館屋根工事
- ③大学 室外掲示板補修工事
- ④大学・高校 テニスコート補修工事
- ⑤高校 サッカー場補修工事
- ⑥高校 2・3 号館屋根等補修工事

2. 各学校の事業報告

〔1〕宮崎産業経営大学

少子化がより一層進む環境の中で、学生確保は益々困難を伴ってきている。地方の小規模校は、大なり小なり同じ状況に置かれていると言っても過言ではない。このような中、本学では、引き続き次の4項目に重点を置き、努力するものとする。

- ①本学の特色や強みが受験者層に受け入れられる努力（就職に強い大学・そのための様々な方策）
- ②入学後の満足度を高める努力（学生一人ひとりの充実感）
- ③地域の評価を得られる努力（地域に密接に結びついた社会貢献）
- ④受験者獲得のための戦略の工夫（メディアの活用）

これらの一連の問題点、方向性、ビジョンを大学教職員一人ひとりが同じ土俵に立ち、学生のニーズを尊重しながら、強い力で指導していく根気と気迫が求められる。そのため、高等学校訪問だけでなく、本学の内容を教員、事務職員の別なく、あらゆる場で、教育方針や活動状況を認知されるための努力を継続して実施していくものである。

また、宮崎県内で唯一の社会科学系大学として、法律・経済・経営・行動科学の領域に関する事項の調査分析及び地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、もって地域の再生・活性化に貢献することを目的とする社会科学研究所を設置しており、今後も身近な問題を取り上げ、地域の再生・活性化に貢献していくのもである。

（1）教育目的を踏まえた教育課程の編成

法学部の新カリキュラムは平成28年度より開始し、その有効性については今後、継続的に検証していく予定である。経営学部についても、カリキュラムの有効性については、今後とも検証していく予定である。

また、教授方法の工夫・開発については、FD活動の体制や内容を整備・充実していくため、両学部合同のFD検討委員会を通じて毎年継続的に改善を行っていく予定である。

（2）就職マニフェストの推進

本学では「就職に強い大学」となるため、「MSU就職マニフェスト」（魅力倍増宣言）を打ち出し、学生が社会に出てもすぐに通用する即戦力のある高い教養と、自分の将来を設計できる自立心を持った人材育成のための「就職マニフェスト」の3本柱を学生に対する指導の重点項目とするものである。

①求人開拓の倍増

学生の選択肢を増やす目的で求人数を倍増させるため、各エリアごとに担当の教職員を配置し、年間を通じて企業訪問を実施した結果、この目標は平成16年度で達成した。

よって、今後は、求人対策プロジェクトとして、学生のニーズに合致した求人を集積すべく努力していく。

②個別指導の倍増

Cナビ（進路研究演習）担当教員と専門ゼミ担当教員の二元体制、さらに、就職総合支援センターの職員と連携して一人ひとりの学生を確実にフォローアップしていく。

③学力アップの倍増

「Vコース」（基礎学力の向上と就職試験一次対策）を始め、「Cナビ」（社会観、職業観の醸成を図るゼミ）、「Wスクール」（公務員、教員受験対策等）で学力アップを倍増する。

その他にも、就職後、離職した卒業生に対してもキャリアサポートセンターを設け、

フリーターやニート防止にも全力を傾注している。地域社会と連携しながら社会に出た卒業生の再就職支援、離転職の相談に対応する等、入学から卒業後に至るまでフォローをしていく。

(3) 進路別コース等の設定

平成 18 年度から各学部を導入した進路別コースには、コース指定科目を設定し、学生の進路に合わせた知識の修得をめざしている。

法学部

◎行政・社会システムコース

法律を通して、行政や社会の仕組みを学び、これからの社会の将来像を描くことのできる法的思考能力や政策的思考能力を身につける。

◎法律実践コース

司法試験（法科大学院進学）、司法書士、行政書士などの法律専門職や企業法務部門で活躍する人材をめざす。

◎スポーツ法学コース

法律の専門科目に加え、スポーツに関連した法律学やマネジメントについても学び、スポーツの経験と法的知識を兼ね備えた人材をめざす。

経営学部

◎総合経営コース

総合的に経営学を学び、組織を運営するための能力や会計・情報などの実践的能力を修得し、経営に関する幅広い知識とマネジメント能力を身につける。

◎金融マネジメントコース

経済・金融のスペシャリストに必要な知識とスキルを身につける。ファイナンシャル・プランナーなど資格取得にも取り組む。

◎スポーツマネジメントコース

スポーツをビジネスとして携わるための理論や知識を修得することで、スポーツビジネスの発展に貢献する人材をめざす。

コースの学びや内容については、学生のニーズに応じていく予定である。

(4) 教員養成

開学当初より教職課程を設置し、法学部においては中学校教諭一種（社会）、高等学校一種（地理歴史・公民）が、経営学部においては高等学校教諭一種（商業・情報）が取得できる。

また、取得できる教員免許状の充実を図るため、平成 19 年度から神戸親和女子大学、星槎大学と提携を進めており、在学期間中に、幼稚園教諭一種・二種免許、小学校教諭一種・二種免許、特別支援学校教諭一種・二種免許、保健体育教諭一種・二種（中学・高校）免許も取得できる体制となっている。

(5) 女性に優しい大学

本学の平成 30 年度在学者で女性の割合は、法学部が 16.2%、経営学部が 32.3%である。今後ますます少子化が進んでいくことを考えると、女子学生をいかに多く獲得するかがポイントになってくるものと考えられる。コマーシャル等で女子学生が頑張っていることをアピールするほか、女性に優しい環境を作るために、平成 29 年度にレディ・サロンやパウダールームを整備した。

(6) 「SUN18°塾」の活動

学生のキャリア形成を支援し、高度な採用試験・資格試験を突破できる人材を輩出するため、以下の「SUN18°塾」を設けた。本学は、県内唯一の社会科学系大学であり、広く九州管内をみても法学と経営学（含む経済学）を両立させている大学は希少な存在であることから、この「社会科学」の大学である優位性を強力に推進していく。さらには、学生の満足度を高め、地域の本学に対する評価の向上に繋がるよう、この計画を継続、発展させていくものである。

これらによって「就職に強い大学」のイメージを定着させていく。

○国家大計塾

国家Ⅱ種・地方上級現役合格、明日の国家・地方行政を担う人材育成

○リーガルマイスター塾

ロースクール現役入学、司法書士・行政書士等法学資格試験現役合格等、法律実務家を養成

○税務会計塾

税理士国家試験現役合格、高度なコンサルティング能力を備えた人材育成

○ITリーダー塾

情報系難関資格を取得し、企業、学校等での情報化推進リーダーを養成

○青年実業家養成塾

事業継承、起業家としての総合社会科学を学び、「社長学」を体得した人材を養成

○教員養成塾

神戸親和女子大学との連携による「幼稚園教諭一種・小学校教諭一種免許状」取得（通信教育課程）並びに星槎大学との連携による「特別支援学校教諭一種・二種、保健体育教諭一種（中学・高校）免許状」取得（通信課程）のための教員養成

○宅建チャレンジ塾

基本的な法理論を学び、「宅地建物取引士」試験合格をめざす人材を養成

○医療関連塾

医療の特殊性や独特な仕組みを学習し、医療の知識を備えた人材育成

○観光・旅行塾

地域の活性化（観光客の誘致）などに取組、観光業界で働く人材育成

○田園都市デザイン塾

オランダ国立大学との共同プロジェクト「アグロポリス 21」に携わり、色々な経験を積むことで、コミュニケーション能力をもった人材を養成

○ボランティア・スタディ塾

学生の主体的・自発的な学習をサポートし、関心のあるテーマごとに「自主ゼミ」を編成し、レベルアップ・スキルアップを図り、幅広い知識と専門知識をもった人材を育成

(7) 「アグロポリス 21 プロジェクト」について

県内農業・食品加工業などの農食産業を元気にすることで若者が地元に残れる地域づくりを目指したいとの想いで、平成 28 年度にアグロポリス（田園都市構想）の事業を開始した。開始以来、オランダへ 5 回の派遣とオランダ王国ワゲニンゲン大学の研究者を交えた研究会開催等の歩みを進めてきた。5 回目の派遣は、平成 30 年 3 月 20 日から 4 月 1 日までの 13 日間、JA の専務理事、本学教員 5 名と産経大生 2 名のチームでオランダ国立ワゲニンゲン大学において研鑽を深め、「経営モデルについて」のプレゼンを行った。また、7 月

にフードバレー研究会を、11月にアグロポリス21評価委員会・宮崎フードバレー研究会合同会議を開催した。同11月3日にはシンポジウム「アグロポリスー企業家精神と経営ー」と題してシンポジウムを開催した。このシンポジウムでは、本学卒業生で、コスモス薬品社長、ジョイフル関東社長からのビデオメッセージも紹介された。

次年度からは、アグロポリス第2ステージとして若者が主体となって次世代型アグロポリスを進めていくこととしている。その一環として、天正遣欧少年使節団にならい、「遣欧青年使節団」の選定を行う。これは、先進的な農業で成功しているオランダなどで見聞を広められるよう派遣するもので、具体的には、1チーム5名（産経大2名、高校生2名、JA青年部1名）で5チームの研究チームを作り、その5チームが来年6月のアグロポリス研究会で発表を行い、審査の上、最優秀チームが決定する。最優秀チームは1週間から10日の間、ヨーロッパに派遣する。また、派遣されたメンバーは11月初旬のアグロポリス会議で会議メンバーとして参加し、その翌日開催予定のシンポジウムではヨーロッパ研究視察報告を行ってもらう予定である。

（8）セミナー等の開催

7月に「民法シンポジウム～18歳で成人!？」を開催した。このシンポジウムではコーディネーターに宮崎日日新聞社の報道部次長をお招きし、県内の高校生5人と産経大生2名がパネリストとして参加した。

県内外の高校生250人の参加者を前に18歳で成人を迎えることについての不安や期待など、活発な意見が交わされた。このときの様子は、後日、宮崎日日新聞で特集を組み広く伝えていただいた。

他に平成30年度は、「古事記日本書紀編さん1300年記念関連公開講座」「成年後見人制度利用促進への展望ー利用促進計画の策定と中核機関のあり方ー」「出生前診断と障害者の人権」を開催した。

（9）宮崎県、日向市、高鍋町と調印

本学は、地域創生や地域活性化に関する取組の推進を目指し、平成28年3月2日に日向市と「地域資源の活用に取り組む連携協定書」を、平成28年3月16日に宮崎県と「地域創生に係る包括連携に関する協定書」を、平成28年3月24日に高鍋町と「地域創生に係る包括連携に関する協定書」の調印を行った。

協定書に基づき、日向市とは「日向へべず諸費拡大プロジェクト支援事業」、高鍋町とは「高鍋の子どもと未来のための作戦会議」を実施中である。

（10）宮崎日日新聞社との連携協定

本学は、地域の人材育成や地域社会の発展に寄与する調査・研究を行うことを目的に「包括的連携協力に関する協定書」を宮崎日日新聞とは平成29年2月に、宮崎放送、テレビ宮崎とは平成29年9月に調印を行った。マスメディア論の講義では、前期に宮崎日日新聞社による講義、後期は各テレビ局による講義を行った。また、講義のまとめとして、学生が実際の番組をプロデュースした。今後も連携していく予定である。

（11）地元高等学校との連携

昨年に引き続き、宮崎南高校フロンティア科「総合学科」のための研修講義をゼミナール形式で開講した。「大学の知」を地元等の高校に提供するとし、代理店経由を含め延べ36回の出前授業等を行った。さらに、高等学校の本学見学を10校受け入れた。

今後も地元高等学校と連携しながら色々な取組を行っていく予定である。

(12) 外国の大学との提携

平成30年2月、日本から一番距離の近いアメリカの「グアム大学」と提携した。これまでも本学は、オーストラリアで最も歴史のある私立大学「ボンド大学」と提携し、4週間（夏季・春季）の海外語学留学を希望者に対して行っている。また、平成27年には農業分野で世界第一位のオランダ国立ワグニンゲン大学と協定を締結し、宮崎の農食経営を世界に放つアグロポリス構想の研究を通して、学生間の人的交流を図っている。今後も多くの学生が参加できるよう語学研修プログラムを促進していく予定である。

(13) 宮崎産業経営大学同窓会（仮称）設立に向けて

本学は、開学33年を迎え、1万人にのぼる卒業生が各界各層で活躍している。そういった中で、卒業生有志が本学後援会の協力を得ながら、卒業生との連携を図り始めているところであり、大学当局としてもサポートしていきたい。

(14) 学生支援給付奨学金の実施

平成30年度は、寄付金による奨学金を、学業が優秀で、かつ、修学意欲が旺盛な学生30名に対し、一人当たり年額8万円の給付を行った。今後も寄付金を募り、奨学金の給付を実施していく予定である。

(15) 認証評価の実施

すべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める7年に一度、文部科学省が承認する承認評価機構の実施する評価を受けることが義務付けられている。

この認証評価に向け、日々の教育活動を点検しながら、業務を進めている。

また、認証を受けたこと及び報告書等をホームページ上に公開している。

(16) SD (Staff Development)の実施

SD活動を効果的・効率的に実施していくため、全学的なSD委員会を平成28年度に設置した。その委員会において本学の実情に応じた研修を行うこととしている。平成30年度は、10月に「公的研究費コンプライアンス・研究倫理教育研修会」「私学共済制度・年金制度研修会」を実施した。

(17) 情報公開について

学校教育法施行規則第172条の2第1項に基づく情報公開については、ホームページに平成23年3月から掲載している。

また、平成26年10月から大学ポートレートへ参加し、教育情報を大学ポートレートWEBサイトに掲載している。掲載内容等については、今後、検討を重ねていく予定である。

[2] 鵬翔高等学校

夢を育む鵬翔高等学校の創造を目指して

鵬翔高等学校は、「実学・協調」の建学の精神のもと、九十年に亘って優れた知性とたくましい個性を具えた人材の育成に努めてきた。この伝統と歴史を育んできた本校は、これまでの実績をさらに飛躍、伸長させるとともに、これからも生徒一人ひとりが明るく活気のある

る学校生活を送れるように、全職員一丸となって「思いやりのあるきめ細やかな教育」を実践し、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成に努める。

(1) 教育方針

教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき、学園の建学の精神を体し、次代の日本を担う創造性豊かにして、堅実且つ意欲的な生きる力に満ちた人間の育成に努める。

① 実力養成の教育（知育）

学力の向上に努め、将来にわたって学ぶ力を育成する。そのために各科の目標に対応できる教育指導体制の確立を図り、所期の目標の達成に努める。

② 良識ある人間の育成（徳育）

心の教育に重点を置き、健全な社会人となるための礼節を身につけさせ、生徒の自覚を促し、社会の発展に貢献するよう良識に基づいて行動する人間の育成に努める。

③ 不撓不屈の精神の涵養（体育）

心身を錬磨し、健全な身体の育成に努め、何ごとにも屈しない堅忍不拔の精神を養い、自己実現の基礎づくりに努める。

(2) 教育目標

① 品位ある人間の育成に努める。

生徒として基本的な生活習慣を確立させ、礼節を重んじ、言語、服装、行動において、節度のある人間を育てる。また、校則、社会規範を遵守できる適格な判断力を持つ生徒を育成し、けじめのある生活習慣を養う。

② 個性の伸長をはかる。

学校生活においては、学習活動、部活動、資格対策、生徒会活動等の多くの活動があるが、これら諸活動への参加を促進させ、充実感や達成感を体験させることにより、個性の伸長をはかる。

③ 進学体制の強化、充実をはかる。

指導体制の万全を期するため、教師の指導力を高めるとともに、選択科目、課外、校内塾、模擬試験等を充実させ、生徒の実力を養い、生徒の目標を達成させる。

④ 自己実現をはかる就職等の進路体制の強化をはかる。

早期に目標を設定させ、生徒の適性に応じた指導体制を確立する。資格取得や基礎学力の定着をはかり、希望する進路を実現させる。

⑤ 生徒指導の充実をはかる。

基本的な生活態度を確立し、帰属意識、規範意識を高める。合わせて多様化した社会へ安全教育の充実をはかる。

全職員あげて校内外の生徒指導の充実をはかる。

⑥ 特別活動の充実をはかる。

活力ある学校生活を送らせるために、学校行事やホームルーム活動等を通じて、集団を構成する一員としての自覚を促し、他と協調できる豊かな人間形成に努める。

⑦ 保護者との連携をはかる。

生徒が健全な学校生活を過ごすには保護者、学校の相互の信頼と協力があってこそ成り立つ。遅刻、欠席、早退等の相互の連絡、生徒の悩みや将来について、保護者との連携をはかる。

⑧ 国際理解教育の推進をはかる。

国際交流の場を設定し、外国・日本双方の文化に対する関心、理解を深めさせる。

他の国を理解することにより、日本の良さを再認識できるようにする。

本年度は、次を重点目標と設定し、その実現をはかる。

- I 服装・容儀指導の徹底を図り、明朗で礼節を重んじる節度ある生徒を育成する。
- II 各学科・学年の教科で必要とされる基礎的・基本的事項を精選し、その定着指導を実践する。
- III 各学科の特色を活かした人材の育成を目指し、思いやりのある、きめ細かな教育を実践して、進学・就職両面での出口の保証に努める。

(3) 教育目標の達成を目指して

本校は、進学系・実業系の両方を兼ね備えた総合高校であり、これらの目標を明確にするとともに、平成 23 年度に学科のコースについて改編を実施した。

① 進学体制の強化充実及び整備

ア「特進英数科」

進学体制を強化するため、また、昨今の大学入試の多様化への的確な対応や特に難関国公立大学・医歯薬系統への進学指導の徹底を図るため整備した。

イ「英数科」

「文武両道の中で、国公立大学を目指す（総合進学）」「トップアスリートに成長し、多岐にわたる進路実現を目指す（スポーツ）」という 2 つの視点で整備した。

② 就職指導の強化充実及び整備

ア「くらしの科学科」

「商業情報」「医療歯科」の両コースとも、人間社会、つまり「くらし」の主たる部分を構成するものであり、高校生にとって身近な素材を取り上げて学習するカリキュラムとした。高次資格・歯科助手等の取得を確実に達成し、就職・進学に強い学科の特徴を明確にした。

イ「システム工学科」

「電子機械」「自動車工学」の両コースとも、数万点にも及ぶパーツを組み立てて製品を作るというシステム工学の分野において、「実験・実習重視のものづくり」を共通目標に据えたカリキュラムとした。パソコン技術検定や自動車整備士等の各種資格取得を着実に達成した。

ウ「看護科・看護専攻科」

今後も職業人育成としての教育の質を低下することなく、看護師育成と全員の国家資格取得を目指すとともに地域医療に貢献する人材育成を目指す。

(4) 生徒募集の充実について

広範な生徒募集を継続的、積極的に実施するため、地区担当者との綿密な企画のもと事業にあたる。中学校及び塾等との情報収集を強化する。

(5) 学校評価の実施について

学校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならないとされている。本校においても実施に向け準備に取りかかっている。

〔3〕 鵬翔中学校

鵬翔中学校は、6年中高一貫教育を実践するため、平成15年度に開校した。

6ヶ年中高一貫教育は、高校入試の影響を受けずに安定的な学校生活を送れること、将来の大学進学を念頭に置いた計画的・継続的な教育指導が展開できること、異年齢集団による活動を通じて社会性や豊かな人間性を育成できる等、多くの利点がある。これらの利点を最大限に活用するとともに、高等学校における進学指導実績を活かし、生徒一人ひとりが明るく活気のある学校生活を送れるように、全職員一丸となって「思いやりのあるきめ細やかな教育」を実践し、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成に努める。

(1) 教育方針

教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき、学園の建学の精神を体し、次代の日本を担う創造性豊かにして、堅実且つ意欲的な生きる力に満ちた人間の育成に努める。

① 実力養成の教育（知育）

学力の向上に努め、将来にわたって学ぶ力を育成する。そのために各科の目標に対応できる教育指導体制の確立を図り、所期の目標を達成する。

② 良識ある人間の育成（徳育）

心の教育に重点を置き、健全な社会人となるための礼節を身につけさせ、生徒の自覚を促し、社会の発展に貢献するよう良識に基づいて行動する人間の育成に努める。

③ 不撓不屈の精神の涵養（体育）

心身を錬磨し、健全な身体の育成に努め、何ごとにも屈しない堅忍不拔の精神を養い、自己実現の基礎づくりに努める。

(2) 教育目標

「礼・学・道・健」の4つの概念のもと、学年別目標を設定し、その実現をはかる。

【 礼 】

1年…礼節の形を形成する。（大きな声でしっかりとした挨拶の出来る生徒の育成）

2年…礼節の心を醸成し、豊かな人間関係を構築する。（周囲に対する敬意、思いやりの心を育む。）

3年…1・2年生で学んだことを基礎に、社会性を身に付け、加えて集団のなかで自己をアピールできる積極性を育てる。

【 学 】

1年…学習することの意義を正しく認識し、宅習の習慣を定着させる。

2年…現在の「学ぶ」姿勢を自ら点検、修正できる問題解決能力を育む。

3年…明確な進路展望を伴った学習姿勢の確立。

【 道 】

1年…自己の適性を思い込みでなく客観的に認識する。

2年…自己の将来像を実現可能な「夢」として認識し、その実現のために努力を惜しまない生徒の育成。

3年…高等部への進学を控え、進路展望の具体化と再認識。

【 健 】

1年…食事・睡眠・運動・疾病予防を基本とした健全な基本的生活習慣の確立。

2年…日常生活の中における危機管理能力の育成。

3年…身体の健康をもとに「精神的な逞しさ」の育成。

(3) 学校評価の実施について

本校においても高等学校と足並みをそろえ、実施に向けて準備に取りかかっている。